

京都府北部連携都市圏地域公共交通計画の素案について

(1) 京都府北部連携都市圏について

人口減少等が進み、それぞれの市町が単独で全ての機能を維持・確保していくことは困難である中、各地域の強み・個性を生かしながら「選択と集中」「連携と分担」をコンセプトにする「水平連携」のもと京都府北部5市2町（福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町）で一つの都市圏として経済・生活圏を形成し、圏域全体の活性化・持続可能性強化を図るもの。京都府北部5市2町では、京都府北部地域連携都市圏形成推進協議会を組織し、分野ごとに、6つの部会で事業に取り組んでいる。

(2) 圏域の交通における主な現状と課題

- 高齢者等の運転免許返納も増える中、移動手段の確保が重要となっているが、人口減少の本格化等に伴い、利用者の減少や公共交通の担い手（後継者含）不足が深刻化しており、公共交通の維持（殊にバス路線）が困難となっている。
- また、人口減少に伴い、基礎自治体の税収の減少が見込まれている中、バス路線維持にかかる財政負担額の増加が懸念されている。
- 生活交通の維持はもとより、観光による地域振興を図る上でも、インバウンドを含む地域外の来訪者にとって利用しやすい移動手段の確保に努めていく必要がある。
- また、安定的な輸送を確保するため、施設及び設備等の着実な更新や、防災・減災対策並びに代替輸送等、近年の甚大化する災害（平成30年7月豪雨等）への備えが必要。
- 加えて、人口減少社会においても持続可能な公共交通の維持のため、AI・ICT技術等の導入や自動運転等の新たな移動手段を組み込んだ「地方におけるSociety5.0」に向けた公共交通の在り方の検討や、その地域の実情に応じた高齢化等に伴うドア to ドア需要等の多様な移動ニーズへの対応が求められている。
- さらに、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、with コロナ・ポストコロナ社会に対応した公共交通の実現が不可欠である。

(3) 京都府北部地域連携都市圏公共交通活性化協議会について

近年の人口減少の本格化、高齢者の運転免許返納の増加、運転手不足の深刻化、公共交通を確保・維持するための公的負担の増加等により、公共交通の維持は容易ではなくなっている中、地域の暮らしと産業を支える移動手段を確保することがますます重要となっている。

また、地域における移動手段の維持・確保は、交通分野の課題解決に留まらず、まちづくり、観光振興、更には健康、福祉、教育、環境等の様々な分野で効果をもたらされ、地域社会全体の価値を高めることにも繋がる。

これらの背景から、地域の移動ニーズの実態を踏まえ、京都府北部5市2町と交通事業者

や関係団体等とともに、将来にわたり、本圏域が持続可能な交通圏域を確立できるよう協議を行うため、京都府北部地域連携都市圏公共交通活性化協議会を立ち上げるものである。

本協議会において中長期的なビジョンを持って、スケールメリットを生かした、広域的な施策展開を行うべく、圏域内の交通に関するニーズ調査等を共同実施するとともに、本圏域における５ヵ年の「地域公共交通計画」を策定する。

この度、１１月２６日（金）に調整会議にて別紙のとおり素案が示されたことを受け、『京都府北部地域の公共交通に関する現状と課題』、『計画の基本方針及び実施事業』に関して、『回答様式』にて記載の上、意見を募集する。

【今後の主なスケジュール】

- ・令和３年１２月 各市町の分科会で素案を議論
- ・令和４年 １月 計画の最終案をまとめる【予定】
- ・令和４年 ２月 各市町の分科会で最終案を議論【予定】
- ・令和４年 ３月 第２回協議会にて『地域公共交通計画』策定へ

京都府北部地域の公共交通に関する現状と課題

■圏域の公共交通を取り巻く現状

【地域特性】

- 中丹地域(綾部市、福知山市、舞鶴市)は、JR 西日本の鉄道路線と京都交通、西日本 JR バスの路線バスが、丹後地域(宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町)は、京都丹後鉄道の鉄道路線と丹後海陸交通の路線バスが基幹交通。
- 圏域内での移動様態では、中丹地域は地域内での移動が多いことに対して、丹後地域は、地域内に加え中丹地域への移動も多い。通学では、中丹地域内、丹後地域内での移動が主。
- 海の京都 DMO を中心として、国内観光客だけでなく外国人観光客の誘致にも力を入れており、積極的な施策の展開により観光客が伸びている。

【社会動態】

- 観光入込客数は増加傾向
※2010 年：8,635 千人⇒2019 年：10,262 千人（19%増）
- 人口減少・高齢化の深刻化
※圏域人口 2010 年：309 千人⇒2020 年：278 千人（11%減）
※高齢化 2015 年：32.8%⇒2020 年：34.7%
- 運転免許返納者数は増加の一途
※2011 年：37 人⇒2019 年：1,475 人
- 日常生活（通勤・通学、買い物、通院）における自動車への依存
※家族送迎を含め、8 割～9 割の者が自動車を利用
- 公共交通を維持する経費の増加（公費負担）
※2011 年：990,434 千円⇒2019 年：1,329,050 千円（34%増）

■京都府北部地域内の移動状況

- 中丹地域（福知山市、舞鶴市、綾部市）は地域内の移動が主となっているが、丹後地域（宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町）では丹後地域内だけでなく、中丹地域への移動も多い。
- 移動の目的は、買い物という回答が最も多く、利用する交通手段もほぼ自動車となっている。

■圏域の移動ニーズの実態

【市民アンケート調査】

- アンケートの結果、利便性や待合環境向上の声が多いものの、大半が自動車利用でバスへの代替ができないという回答

【高校生アンケート調査】

- 公共交通に対して、便利で使いやすいといった好意的なイメージ
- 一方で運行本数が少ない、運賃が高いという不満
- 通学時間帯は密状態を踏まえたバスや鉄道の増便や増結といった要望
- 運行本数の増加、登下校に合わせた運行時間、フリーWi-Fi への要望

【鉄道・バス利用者調査】

- 趣味での利用が最も多く、買い物・通院といった利用が続く
- 本数が少ないという不満が多いが、半数以上の者が公共交通に満足

運転手不足等や
コロナ禍による
交通事業者の厳
しい経営環境

厳しい財政状況
の中での公共交
通を支えるため
の財政負担の増

圏域の実態がこのまま続けば…

過度な
自動車への
依存

公共交通の利用者減、財政負担増

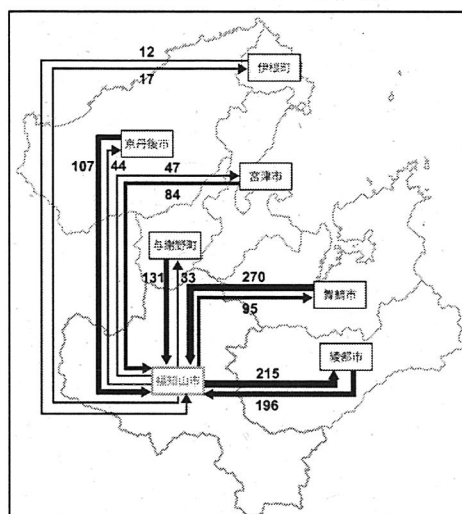
公共交通の維持困難

自動車が使えなくなった時には公共交通での移動が難しい状況に

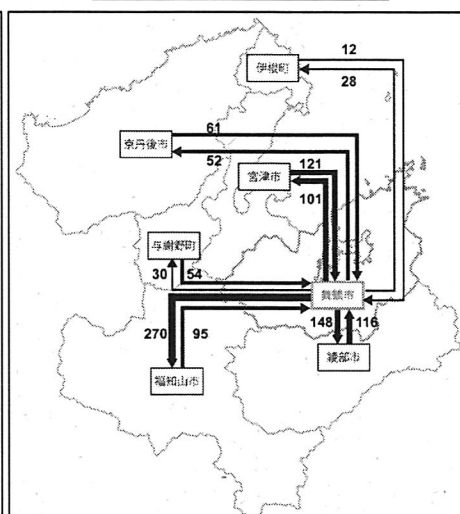
上記の状況にならないためにも、
自動車に過度に頼ることなく、公共交通利用者の満足度を高めるとともに、
利用機会などをつくりながら、公共交通へのマインドセットの転換が必要

(参考)京都府北部地域内の移動状況図

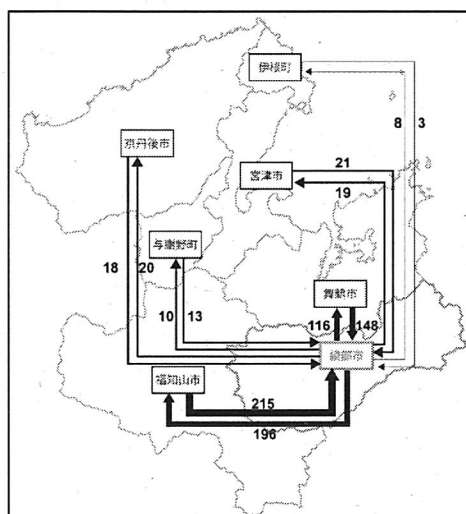
福知山市



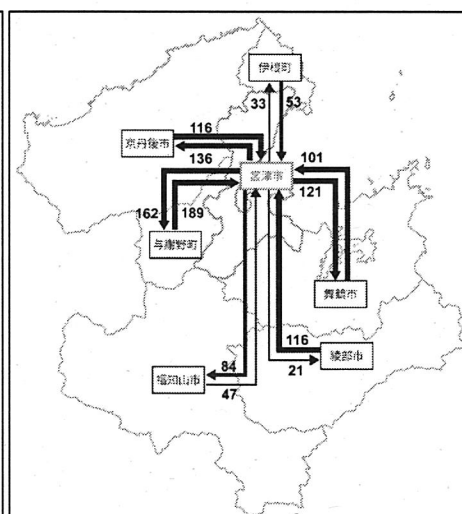
舞鶴市



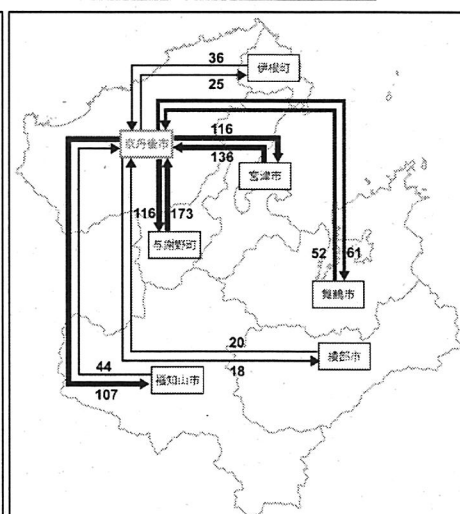
綾部市



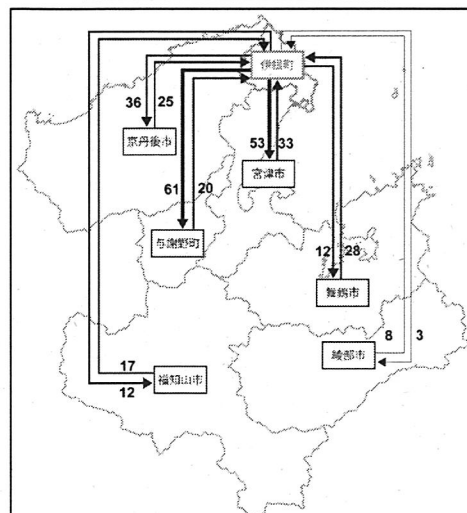
宮津市



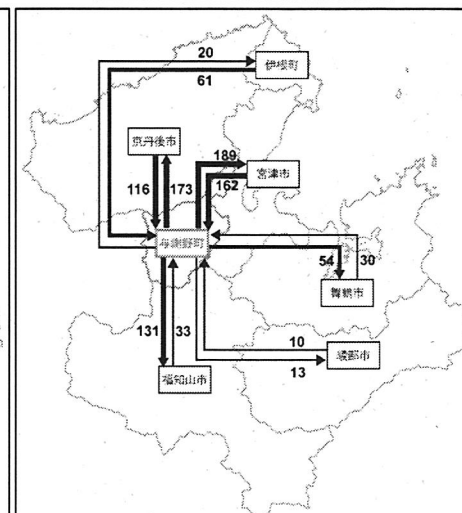
京丹後市



伊根町



与謝野町



基本方針

多様な移動ニーズに対応する持続可能で便利な交通圏域

目標1

利用者の満足度がより高まる公共交通の実現

利用者の満足度を高めることで移動手段として選ばれ、新たな利用者がさらに生まれるような好循環を公共交通で実現するための取組を展開。

【方策1】交通結節点での乗り継ぎを考慮した運行ダイヤの調整

【方策2】路線バス等の運行ルートの見直し

【方策3】待合施設的环境整備〈Wi-Fiや多言語案内表示の整備など〉

【方策4】圏域の公共交通利活用ガイドの作成

【方策5】MaaSなど利用者目線での利用促進の取組や新たな利用者の掘り起こし

目標2

だれもが公共交通の使い方を理解し、移動に困らない圏域の実現

公共交通「も」利用した移動手段を知ることで、自動車以外の移動方法がわからない、移動手段の選択弱者として誰も取り残されない圏域を実現するための取組を展開。

【方策6】高齢者や低年齢層を対象としたバスのお試し乗車会の実施

【方策7】運転免許証返納前の段階における高齢者の利用促進

目標3

自動車に過度に頼らないまちづくりや広域観光と連携する公共交通の実現

本圏域で自動車に頼り過ぎなくとも移動が可能となるように、まちづくりや観光などと連携した利用しやすい移動手段となる公共交通を実現するための取組を展開。

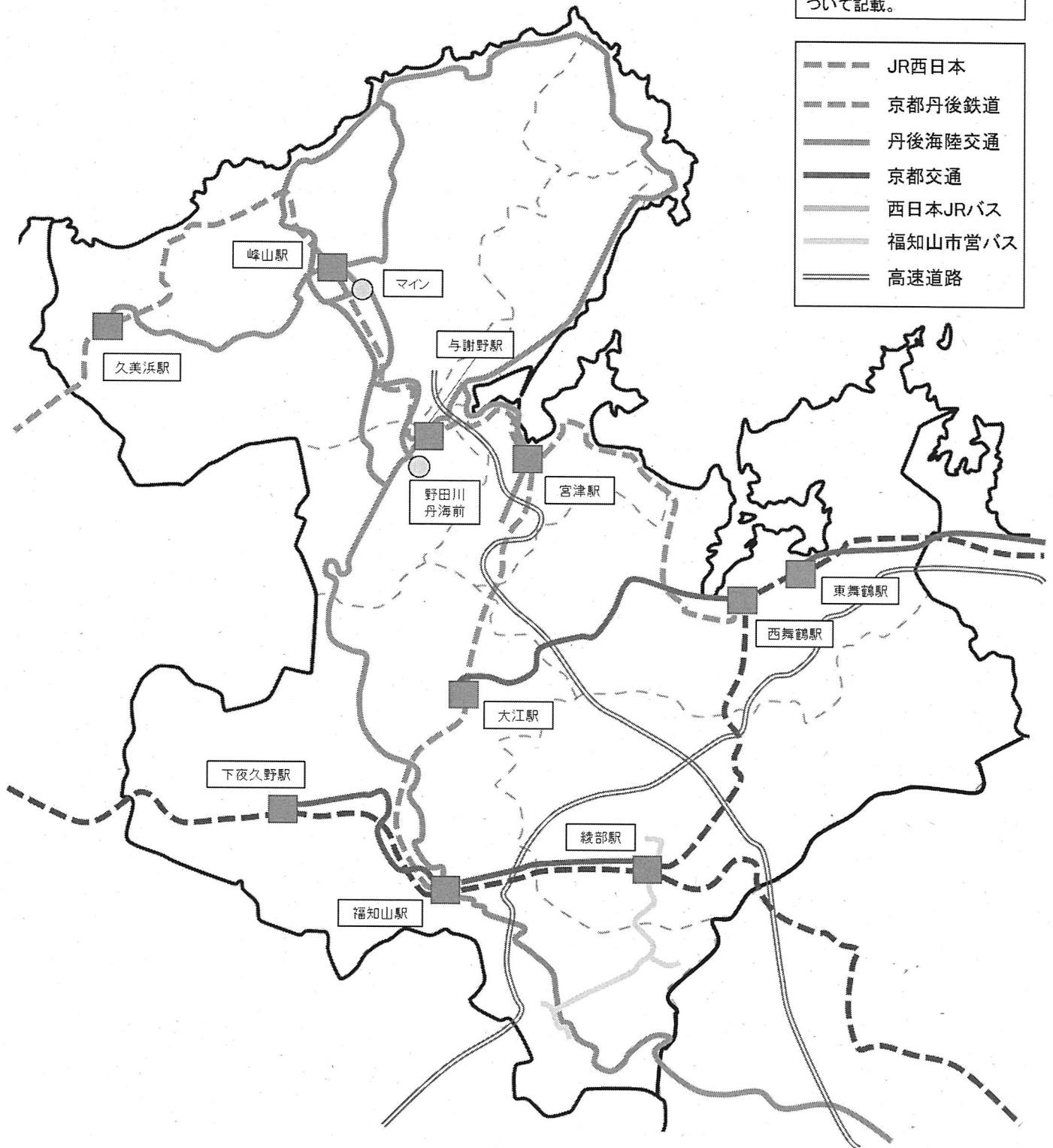
【方策8】公共交通による周遊観光ルートの検討

【方策9】医療や公共施設等広域拠点への効率的な運行ルートの検討

【方策10】大規模災害時のリダンダンシー機能の確保

京都府北部7市町において、
幹線補助系統または、市町を
またいで運行している路線に
ついて記載。


- JR西日本
- 京都丹後鉄道
- 丹後海陸交通
- 京都交通
- 西日本JRバス
- 福知山市営バス
- ===== 高速道路




資料 2

【委員氏名：

問1 【京都府北部地域の公共交通に関する現状と課題】について、ご意見がありましたらご自由に記入ください。



問2 【計画の基本方針及び実施事業】について、ご意見がありましたらご自由に記入ください。



問3 全体を通じてご意見がありましたらご自由に記入ください。

以上で設問は終わります。ご協力いただきありがとうございました。

回答締切：12月15日（水）17時00分まで

下記のいずれかの方法で提出をお願いします。(宛先:企画財政課本田まで)

- ③与謝野町役場へ直接持ち込み